

第 15 回伊那市地方創生総合戦略審議会 会議録

開催日	令和元年 12 月 25 日 (水)			
開催時間	開 会	午前 10 時	閉 会	午前 11 時 55 分
開催場所	市役所 多目的ホール			
委員出席者	伊那市議会	飯島 進		
	伊那地区区長会	平澤 隆		
	高遠町地区区長会	諏訪 光俊		
	長谷地区区長会	西村 利美		
	上伊那農業協同組合	伊藤 昭人		
	上伊那森林組合	原 武志		
	伊那商工会議所	向山 賢悟		
	伊那青年会議所	小笠原 裕樹		
	地域交通事業者	石倉 信一		
	伊那市金融団	鳥原 秀夫		
	連合長野上伊那地域協議会	唐澤 大輔		
	伊那市社会福祉協議会	小池 浩史		
	伊那市教育委員会	北原 秀樹		
	伊那市保育園保護者会連合会	池上 裕平		
	伊那市観光協会	向山 知希		
	信州大学	林 靖人 (代理出席 新井)		
	公募	舛井 優子		
欠席者	長野県経営者協会 上伊那支部	小口 知彦		
	中部 P T A 連合会	垂水 浩二		
	伊那市女性人材バンク	唐澤 桂子		
委員以外の出席者	上伊那地域振興局 企画振興課長	山邊 英夫		
出席した事務局職員等	企画部長	飯島 智		
	企画部地域創造課長	唐澤 直樹		
	企画部地域創造課人口増推進係長	田中 久		
	企画部地域創造課人口増推進係	中山 修一		
	企画部地域創造課人口増推進係	伊藤 貴		
議 事	(1) 地方創生に関する視点について (2) 伊那市地方創生人口ビジョンについて (3) 伊那市地方創生総合戦略について			
配布資料	資料 1 国 総合戦略体系図 資料 2 Society5.0 について 資料 3 SDG s について 資料 4 関係人口について			

事前資料	第2期地方創生人口ビジョン（試案）
事前資料	第2期地方創生総合戦略（試案）

1 開 会

2 会長あいさつ

- ・長野県内では北信を中心として豪雨災害があった。お見舞い申し上げたい。
- ・地方創生では12月は重要な時期。ふるさと納税の動きが大きくなる。伊那市ではふるさと納税をこの数年で100億円近くを全国のみなさんから寄付していただき、財政再建が一気に進んだ。
- ・昨日厚生労働省の発表で今年1年間に生まれた子供の数が90万人を割り込んでしまったとのニュースがあった。また、年間での自然動態がマイナス50万人となっているとの報道もある。
- ・伊那市も例外ではなく人口が減少傾向にある中、少しでも持続可能となる市となるよう皆様からご意見いただきたい。

3 会議事項（進行：原会長）

（1）地方創生に関する視点について

会 長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： （資料1～4により説明）

会 長： 説明内容について、ご意見、ご質問等がありますか。

委 員： SDGsに積極的に取り組んでいるとのことだが、人権や環境の配慮などは大変苦慮する点も多いと思う。企業の皆様が取り組んでいく上での課題等があるようでしたらお伺いしたい。

委 員： 農村の環境という項目もあるので、農業の担い手や高齢化などの課題もある。環境も守っていくためにも農業を支えていく必要がある。また、各企業の取り組みでも収益と環境配慮のバランスも大変な点かと思う。

委 員： CO2の削減等に取り組んでいるが取り組みは途上である。

（2）伊那市地方創生人口ビジョンについて

会 長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： （事前資料 人口ビジョン（試案）より説明）

会 長： 今回戦略を見直す中で、数値も変える必要があると思う。ご意見、ご質問等がありますか。自然動態2.07の目標値は人口置換水準であり、多くの自治体での目標となっている。社会動態については実現可能だろうという数字としては生かしてもよいのではないかと。ただ、人口についてはだいぶ乖離があるので修正の必要があるのではないかと。

委 員： 出生率については、H28までは長野県の平均を上回る率で来たが、H29には下回っている。H29が減少した原因は何かあるか。

事務局： 把握できていない。小規模の自治体は振れがある。

副会長： H23に数値が改善している。その回復の要因も調べていただきたい。

会 長： H30の数値も追加していただきたい。

委 員： 県外・県内の転出者数の動向と社会動態の転出者数の合計は一致するのか。国外からの転

入数が増えているのは外国人数が増加しているのが原因か。

事務局： 合計は一致する。外国人数と国外からの転入者数は一致しないが、関係性はあると思う。

委員： 将来人口については会長のいう通り、現実的な数字に修正したほうが良いと思う。これ以上下回ったらまずいという危機感が持てる数字にしたらよいのではないか。現実を見据えたうえで数値にしたほうが良い。

委員： 国外からの転入者数が増加傾向にあるのはどのような要因と分析されているのか。

事務局： 製造業の企業が好調であることが一つの要因として考えられる。

委員： 外国人が働きやすい環境づくりを支援したりする事業はあるのか。

事務局： 現時点では実施していない。

会長： 人口の目標数値としては事務局で修正してもらいたい。自然動態の 2.07 については維持する方向で、社会動態はいかがか。

委員： 女性数の減少が挙げられているが、なぜ女性数が減少しているのか考えると一度出て行った女性が戻っていないことが考えられる。その要因にはどのようなことが考えられているか。また、箕輪町、南箕輪村での転出数が多いのは、水道料等の生活費が安いとのこと話があるが、その点で改善できることはないのか。

事務局： 女性数の減少については、製造業中心で働き口が限定されていることが要因と思われる。現在、ニッセイ基礎研究所に人口の動きについてコンサルティングをお願いし、分析をしている。近隣への転出について把握している。南箕輪村の人口については昼夜間人口比率が 1 を割っている状態。伊那市は 1 をかろうじて超えている。南箕輪では生活は過ごし、他へ働きに行っていることが分かる。また、土地の値段を比較しても、南箕輪村のほうが安い傾向がある。要因を総合的に検討していかなければならないと思う。

会長： 人口の目標数値としては事務局で修正してもらいたい。自然動態、社会動態は変更の意見は特にないということよろしいか。

(3) 伊那市地方創生総合戦略について

会長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： (事前資料 総合戦略(試案)より説明)

会長： 説明内容について、ご意見、ご質問等がありますか。

委員： 伊那市へ進出する企業について、地元の人を積極的に雇用するみたいな約束みたいなものはできないのか。企業によっては地元の人がいらないみたいな企業がある。

事務局： 確かにその視点は重要であると思う。現実には計画を拘束することは難しいかもしれないが、企業へのアプローチの際にその趣旨にそって企業誘致していくことは可能だと思う。

委員： 当社では地元から採用をしようとしているが、応募がある状況ではない。条件に合う人であれば全国から来ていただける人で能力があれば採用している。

会長： 企業は優秀な人がいれば取りたいということがある。

委員： 当社では地元採用だが、今後の方向としては地元出身者に対してアプローチを考えていきたい。逆の視点となるが、伊那市の人口を増やすという点であれ県外者へのアプローチすることも大切となってくると思う。

委員： 産業振興という点であれば観光が遅れている。観光が産業として成立しているという認識を持っていただいて計画を策定していただければと思う。

委員： 今後高齢化が進む中で、健康寿命が延びれば、自然動態の改善にもつながると思われる。健康寿命の延伸に向けた社会保障や健康診断が充実していること一つの施策になるのではないか。

会長： 健康寿命は人口維持の観点でも重要となるので是非入れていただきたい。

委員： 労働力不足の解消に向けて外国人労働力を活用するため、外国人が住みやすい環境づくりや外国人に観光で来ていただく取組を進めていただきたい。

委員： 高遠第二第三保育園への移住者が増えている。東京の人たちや市の職員たちが考えて、空き家の活用や空き家を生かす取り組みを検討してもらいたい。商売でなくとも活用できる仕組みを作って情報発信を行っていけば来てくれる人も増えると思う。

事務局： いただいた意見は基本的視点が入っているのかなと思う。健康寿命の点については出生だけでなく、健康で長生きするという視点を入れる必要がある。

オブザーバー： 討議していただいているものが今後5年、第二期の総合戦略になる。大きく変更となっている点はないので、今回の議論いただいている内容で良いと思う。12月20日にでた国のまち・ひと・しごと創生総合戦略や伊那市の特性を踏まえ、今回の審議会のような意見をいただいて策定いただければと思う。また、人口減少対策には特効薬はない。息の長い取組が必要となる。県としても引き続き支援をしていきたい。

(4) その他

特になし

4 その他

特になし

5 閉会